

平成26年度奥州市総合水沢病院事業報告書

1 概況

(1) 総括事項

ア 一般的事項

奥州市立の病院、診療所の体制や経営をどのようにしていくか、その方向性を決めるため、市では奥州市立病院改革プランを策定し、平成21年度から平成25年度までの5年間取り組んできました。

平成26年度は、前年度策定した新しいプラン（計画期間は平成26年度～30年度）に基づき、プランに掲げた諸目標の達成に向け、前回のプランに引き続き、病院職員が一丸となった経営改善への取組みをより確実なものとするため、諸目標に対する達成を求められる年度でした。

なお、新改革プランの柱の一つとして、市立医療施設の事業の統一があり、平成27年4月を目標に、健康福祉部健康増進課内に地域医療推進室を設置し、市立医療施設全体を地方公営企業法の全部を適用とし、事業管理者が組織・人事・財務に関する責任を持って施設運営をしていく形への統一に向け具体的な検討を行いました。

まず、診療環境整備については、医師数は今年度着任1名及び退職1名により18名となりました。

なお、診療科に関し、整形外科では医師が1名減となったことにより、外来診療に割ける時間に制約が生じたことから、やむを得ず8月より外来受付制限を行っています。

次に、収入増加策については、病院の主な収入である診療報酬において、感染防止対策加算及び急性期看護補助体制加算など引き続き算定できるよう適正な施設基準取得を図ったほか、地域医療連携強化により受入患者の拡大を図ると共に、訪問看護体制の充実、未収金徴収の取組み、各種予防接種の実施、学校健診器具の滅菌業務の受託継続など、収益向上を図るための各種対策を推進し、収入の確保に努めました。

費用縮減策としては、早期退職勧奨など職員数の適正化に努めると共に、事業管理者をはじめ医師を除く職員の給料の削減を行ったほか、奥州市立の病院、診療所で使用する薬品の共同購入も継続して実施しました。

一方、医療サービス提供機能の維持、強化を図るため、脊髄内視鏡下手術器械システムやデジタル脳波システム等の医療機器の整備更新を行い、療養環境の改善については、入院中の食事について、メニューの選択を可能とするなど満足度の向上を図ったほか、病棟への樹脂サッシ取付、厨房及びトイレ改修等を行いました。

このほか、病院運営状況の即時的な把握に努めるとともに、院内各種会議や全職員対象の説明会等を通じて、病院運営状況と当院の目指すべき方向性を職員全員が共有し、問題点や課題に対し円滑な対応ができるよう努めました。

これらの結果、前年度に引き続き経営状況を改善し、経常収支比率をはじめとするほとんどの経営指標について、プラン目標を達成若しくは乖離を縮小することができました。

イ 経営状況

(ア) 患者利用状況

本年度の入院患者数は、48,362人で前年度と比較して2.8%減となり、外来患者数は、91,163人で前年度と比較して4.6%の減となりました。

また、一日当たりの平均患者数は、入院で132.5人（前年度136.3人）、外来で373.6人（前年度391.7人）となりました。

なお、病床利用率は全病床数では88.9%で、前年度より2.6ポイントの減、うち一般病床では91.4%で、前年度より2.6ポイントの減となりました。

(イ) 収益的収入及び支出について（消費税及び地方消費税抜き）

収入では、医業収益で2,803,150,517円となり、前年度と比較して4.9%の減となりました。この内訳は、入院収益で1,734,646,929円、外来収益で803,078,900円、その他医業収益で265,424,688円です。

医業外収益は535,295,530円となり、前年度と比較して27.5%の減となりました。この内訳は、補助金が11,356,000円、負担金交付金が498,358,000円、長期前受金戻入が11,503,109円、その他医業外収益で14,051,421円です。

病院事業収益総額は3,713,787,047円で、前年度と比較して8.5%の減となりました。

支出においては、医業費用で3,085,764,788円となり前年度と比較して0.5%の減となりました。この内訳は、給与費で1,788,469,930円となり前年度と比較して3.2%の増、材料費で534,573,618円となり前年度と比較して10.5%の減、経費で593,959,155円となり前年度と比較して0.5%の増、そのほか減価償却費では151,534,137円、資産減耗費は7,473,427円、研究研修費は9,754,521円です。

医業外費用は95,301,648円となり前年度と比較して31.3%の増となりました。この内訳は、支払利息及び企業債取扱諸費で8,749,002円、雑損失が86,552,646円です。

そのほか特別損失が93,767,772円で、病院事業費用総額で3,274,834,208円となり、前年度と比較して3.0%の増となりました。

この結果、医業収支では282,614,271円の損失でしたが、経常収支では、市からの繰入金等により157,379,611円の利益となり、特別損益を含めた病院事業収支における純損益では、前年度と比較して439,363,380円減少して438,952,839円の純利益となりました。

(ウ) 資本的収入及び支出について（消費税及び地方消費税込み）

収入は、一般会計出資金で総額33,899,000円、国庫補助金で1,463,000円となりました。

支出は、建設改良費62,026,560円、企業債償還金375,341,072円、長期借入金償還金5,428,260円で総額442,795,892円となりました。

なお、収入が支出に対して不足する額は損益勘定留保資金で補てんしました。